

2026年6月12日

世界観光指標 (World Tourism Barometer) 2026年5月号について

世界観光機関(UN Tourism)が2026年6月2日付で公表した標記報告書の概要を以下の通り御紹介します。

本報道発表の原文(英語)は、下記リンクにてご覧いただけます。

[International tourism up 2% in Q1 2026 amid growing uncertainty](#)

世界観光指標原文(英語)は、下記リンクにて抄録(無償)

及び全文(有償)をご覧いただけます。

[World Tourism Barometer \(English version\)](#)

不確実性が高まる中、2026年第1四半期の国際観光は2%増加

2026年第1四半期の国際観光客到着数は、3月に発生した中東地域における危機の影響にもかかわらず、前年同期比2%増加した。

UN Tourismの最新データによると、**2026年第1四半期の到着数は約3億700万人**に達し、2025年の同期比で約600万人の増加となった。年初は全体として旅行需要が持続的に推移する(1月と2月の累計で+2.5%)一方で、3月は中東地域での紛争の影響を受け3月の観光実績に影響を及ぼした(+0.4%)。

この紛争により、2026年の到着数の伸び率は、紛争の期間や規模にもよるが、UN Tourismの当初予測である3~4%から、1~2ポイント低下すると見込まれている。中東発着及び中東域内の航空便の混乱や旅行者の信頼感への影響に加え、原油価格の高騰や一部市場での航空燃料不足により、他の地域でも航空運賃の上昇や運航便数の減少が見られている。渡航費用の高騰に加え、航空路線の接続性に対する不安

定さが相まって、需要がより近場のデスティネーションへとシフトし、旅行需要全体にも影響を及ぼす可能性がある。

UN Tourism のシェイハ・アルノワイス事務局長は「中東で起きている紛争は、同地域をはるかに超えて旅行の動向に混乱をもたらしており、特に輸送費や宿泊費を中心にインフレが加速しています。これは観光客、事業者、そしてデスティネーションすべてに負担を強いています。このような不確実性の渦中にあっても、2026 年第 1 四半期の国際観光は依然として堅調さを維持し、到着数は 3 億 700 万人となり、前年比 2% 増となりました。地政学的・経済的圧力が高まる中、この事実は、観光セクターが単なる産業の枠を超えて経済を支え、機会を創出し、地域コミュニティを維持するという、より広範な役割を果たしていることを裏付けています。」と述べた。

地域別では、ヨーロッパ及びアフリカが第 1 四半期に最も力強い実績

UN Tourism の最新の世界観光指標（World Tourism Barometer）では、2026 年第 1 四半期の実績について、地域別の分析結果を示している。

- 世界最大のデスティネーションである**ヨーロッパ**の到着数は、2025 年の好調な勢いを引き継ぎ（+5%）、2026 年第 1 四半期に 1 億 3,000 万人を超え、前年同期比 4% 増となった。一部のデスティネーションでは、観光客の流れが他地域からシフトしたことにより恩恵を受けた。南・地中海ヨーロッパ及び北ヨーロッパがともに 4% 増となり、中・東ヨーロッパ（+6%）は回復基調を維持した。
- **アフリカ**では、2026 年第 1 四半期の到着数が前年同期比 4% 増となり、成長が持続した。北アフリカでは、3 月に力強い二桁成長（+18%）に支えられ 4% 増となった。また、サハラ以南アフリカにおいても、第 1 四半期の到着数は 4% 増加した。

- **アジア・太平洋地域**の2026年第1四半期の到着数は3%増であった。ただし、デスティネーションごとの実績にばらつきがみられたことから、伸び率は当初の期待をやや下回った。2月には力強い成長(+9%)を記録した一方で、3月の伸びは比較的緩やか(+2%)であった。これは、中東地域の航空ハブにおける混乱の影響を受け、**南アジア**の到着数が27%減少したことが一因である。地域別では、同期間において**オセアニア**(+9%)及び**北東アジア**(+5%)が特に堅調な実績を示した。一方で、全体として、アジアへの到着数は、2019年の水準を11%下回ったままとなっている(2019年第1四半期の水準の89%)。
- 2026年第1四半期の**米州**の到着数は前年同期比2%増となった。中央アメリカでは18%増と力強い成長を見せたが、南アメリカでは1%減となり、やや低調な結果となった。
- **中東**では、紛争の影響により、2026年第1四半期の到着数が14%減少した。今四半期、湾岸地域のいくつかの目的地では大幅な減少が見られた一方、エジプト(+16%)では到着数が堅調に増加した。これは、パンデミック後の中東における力強い回復に続くもので、2025年の到着数は2019年の水準を40%上回った。

2026年1~3月期に到着数の増加を報告した目的地の中で、特に好調だったのは、パラグアイ(+46%)、ニューカレドニア(+45%)、エルサルバドル(+43%)、モンゴル(+39%)、パラオ(+37%)、ウズベキスタン(+37%)などである。観光収入に関しては、2026年第1四半期に2桁の伸びを記録した国がいくつかあり、その中にはパキスタン(+60%)、韓国(+38%)、モロッコ(+24%)、ブルネイ(+22%)、ブラジル(+12%)が含まれる。

中東の危機と輸送費の高騰が最大の懸念事項

UN Tourism 観光専門家委員の最新調査によると、中東情勢の悪化、輸送費や宿泊費の高騰及びその他の経済的要因が、2026年の国際観光に影響を与える3つの主な課題となっている。

専門家委員の約3分の2（64%）が、中東における紛争が自国への旅行需要に悪影響を及ぼしていると回答し、そのうち43%はその影響を「中程度」、21%を「大きい」と評価した。また、36%は紛争が需要にほとんど、あるいは全く影響を与えていないと回答した。

専門家の約61%が、中東紛争が自国への到着数を減少させていると回答した。一方、17%は、他のデスティネーションにおける混乱を背景に到着数が増加したと報告した。回答の約14%は、海外旅行の一部が国内旅行に置き換わったことで、国内観光が増加したと示した。

北半球の夏シーズンに向け、慎重ながらも楽観的な見通し

世界中の観光従事者300名を対象に景況感を調査する最新のUN Tourism信頼感指数によると、厳しい地政学的環境下にあるものの、2026年5月から8月にかけては慎重ながらも前向きな見通しが示されている。なお、同期間は北半球の夏シーズンが含まれる。

- 0～200のスコア（100が「前年と同程度の実績見込み」を示す）において、専門家は2026年5月から8月の見通しを105と評価した。これは、2026年1月から4月の117を下回る水準である。
- 専門家委員の約39%は、この4か月間の観光実績について「良い」（34%）または「大幅に良い」（5%）と見込んでいる。一方、28%は2025年の同時

期と同程度の実績を予測している。また、31%は観光実績が「悪い」または「大幅に悪化する」と見込んでいる。

- 専門家は、紛争の規模や期間を巡る不確実性を主な懸念事項として挙げた。航空便の混乱や航空輸送能力の縮小に加え、原油価格の高騰や航空燃料不足の可能性についても指摘しており、これらは渡航費、予約動向及び消費者信頼感に影響を及ぼす可能性があるとしている。
- ホルムズ海峡を通過する海上輸送の混乱により、原油価格、とりわけ航空燃料価格が急騰しており、依然として高い変動性を示している。これは、観光サービスを含むサービス価格のインフレが既に高い水準にある中で輸送費の上昇を招いており、これが旅行需要に圧力をかけている。
- 今回の危機を巡る不確実性は、航空会社に数千便規模の迂回運航や欠航を余儀なくさせているだけでなく、旅行者のデスティネーションの選択にも影響を及ぼしている。
- このような状況の中、観光客は引き続き費用対効果を重視するとみられる一方、価格上昇を受けて、自宅からより近い旅行先を選択する可能性もある。
- 米州では、カナダ、米国、メキシコが、6月と7月に開催される2026年FIFAワールドカップの開催国となることで恩恵を受ける可能性がある。

主要な観光業界指標

- 国際航空運送協会（IATA）によると、2026年第1四半期の国際航空旅客輸送量は、有償旅客キロベースで前年同期比4%増となり、中東（-16%）を除くすべての地域でプラス成長を記録した。一方、3月の国際航空旅客輸送量は

前年比減 (-1%) したが、これは主に中東の航空会社における航空輸送量の急激な縮小 (-61%) によるものである。

- 中東の航空ハブを経由していた旅客需要が他地域へシフトしたことを受け、アフリカ、アジア・太平洋及びヨーロッパの航空会社は力強い成長を記録した。
- IATAによると、国際航空輸送能力は2026年第1四半期に2%増加した。一方、3月は6%減となり、これも主として中東地域における57%の大幅な減少によるものであった。
- STR社のデータによると、2026年3月の世界の客室稼働率は64%となり、2025年3月と同水準であった。地域別では、ヨーロッパ、米州及びアジア・太平洋が最も高い稼働率を記録(いずれも65%)し、これにアフリカ(56%)、中東(48%)が続いた。
- 中東地域の客室稼働率は、2026年1月の75%から3月には48%へと大幅に低下した。

関連リンク

[UN Tourism 世界観光指標](#)



UN Tourism 世界観光指標 PPT 版



○UN Tourism World Tourism Barometer (世界観光指標) とは

世界観光指標（バロメーター）は最新の世界の観光動向を示す統計指標で、UN Tourism 本部から、年 4 回を目処に公表されます。UN Tourism アジア太平洋地域事務所では、本部の公表にあわせてタイムリーに情報提供しています。

○世界観光機関（UN Tourism）について

UN Tourism は、1975 年 1 月に設立され、2003 年に国連の専門機関に移行した観光に関する国際機関です。観光の地位・競争力の向上、持続可能な観光の推進、観光を通じた貧困削減や開発の推進等を支援しています。

UN Tourism アジア太平洋地域事務所は、UN Tourism の地域事務所として 1995 年に設立されました。アジア・太平洋地域の交流促進を図り、観光を通じた経済発展や国際相互理解の増進を図るために、国際会議、セミナー、シンポジウムの開催や調査研究業務を行っています。

●お問合せ先（メディア専用窓口）

※メディアの方は UN Tourism 本部へ直接、英語でお問合せください。

E-mail: comm@unwto.org Tel: (+34) 91 567 8100

○お問合せ先（メディア以外）

UN Tourism アジア太平洋地域事務所（一般財団法人アジア太平洋観光交流センター）

担当：吉田

E-mail: info@unwto-ap.org Tel : 0742-30-3880